

学生一人ひとりにきめ細かい支援を実施し、高い内定率を維持する取り組み

中国学園大学・中国短期大学
就職支援部 部長
山口裕行



1 本学の概要

本学は1962（昭和37）年に岡山県岡山市で開学し、今年で60周年を迎える歴史ある学園である。短期大学としてスタートし、2002（平成14）年に大学を開学した。さらに、2006（平成18）年に現代生活学研究科の大学院を、2011（平成23）年に子ども学研究科の大学院を設置した。今ではその2つの大学院研究科をはじめ、大学3学部3学科、短期大学3学科を設置する学園を形成している。学生の多くは地元岡山および近県から通学しており、地元可愛される学校といえる。

2 本学の就職支援

毎年、高い就職内定率を維持し、学生一人ひとりが満足した就職ができるように、目標を設定し、学生支援体制を強化している。今年度は次の6点である。

(1) 各学部・学科の教員と就職支援センターの職員との連携を強化

本学の学生の特長は、素直で指示されたことをきちんと行う。しかし、おとなしい学生が多く、就職を意識するまでに時間を要している。そこで、学生と就職担当部署である「就職支援センター」の職員との意思疎通がとても大切となる。

昨年からは、一部の学科で早期に面談

を実施したところ、今年度の内定率に大きく影響していることが分かった。今年度は、早期面談の学科の幅を広げていく予定である。学生の就職に対する意識が向上し、自ら行動することは、本学の教育理念「自律創世」に沿っており、今後継続して実施していく所存である。

(2) 就職活動の支援の工夫と充実

新型コロナウイルス感染防止対策が各企業に浸透し、就職説明会および就職面接の一部または全部がオンラインとなった。これにいち早く対応し、本学就職支援センター内にオンライン専用室を設置。学生は事前予約により利用している。本年度の4月には、昨年度同月の3倍の利用があった。

(3) 就職ガイダンスの工夫と改善・充実

新型コロナウイルス感染症対策に留意して実施している。ソーシャルディスタンスの確保、ガイダンス開始前の教室および学生入室時の消毒。また、一方的な講義からワークや演習等の動きを取り入れたものに変更。事前申込制で、座席指定等の工夫および複数教室で実施。さらにはオンラインと並行で実施している。大学生については、2年生、1年生の参加も可能としている。

(4) インターンシップの推進強化

新聞に、インターンシップを採用に活用するという記事が掲載された。そこで、2度にわたりインターンシップに

関するガイダンスを開催し、参加学生に対しインターンシップの重要性を訴えている。今後は新規事業として、「オンライン開催・学内インターンシップフェア」を計画している。

(5) 就活サポーターの活動内容の充実

学生の中から、学内ガイダンス等の「司会」、シンポジウムの「パネラー」、「アドバイザー」として、後輩のために自分の経験等を活かしたサポートをしている。この経験は、社会に出た時に必ずといっていいほど役に立っている。

(6) 外部組織との連携推進

岡山公共職業安定所（おかも新卒応援ハローワーク）との連携により、例年10月から翌年1月まで「出張ハローワーク」を実施している。就活に出遅れたと感じている学生に相談を促し、内定を獲得している。

さらに、就職情報会社や日本私立大学協会、全国私立大学就職指導研究会、日本私立短期大学協会等、他団体との交流を密にする中で、各種の情報収集を行うとともに、その情報を学生に対してはもちろんのこと、就職支援委員の教員にも共有している。

以上のように、就職支援センター職員一同、一人ひとりの学生と向き合い、希望する進路に就けるよう、きめ細かいバックアップ体制と様々な取り組みに挑戦している。